

芦安中学校 学校関係者評価書（前期）

平成30年8月31日（金）

学校関係者評価委員会作成

第1回 芦安地区学校関係者評価委員会

実施日：平成30年8月31日（金）午後7時～8時30分

会場：南アルプス市立芦安中学校多目的ホール

参加者：学校関係者評価委員

委員長 森本 薫（芦安小中学校PTA会長，学校評議員）

副委員長 名取 大介（芦安小中学校PTA副会長，学校評議員）

委員 清水 実（芦安子を守る会会長，学校評議員）

委員 三井 孝司（芦安窓口サービスセンター長，学校評議員）

委員 森本 章雄（芦安地区学校応援団代表，学校評議員）

学校職員（小学校）校長 名取 昭彦，教頭 河野 瑞穂，教務主任 保坂 美紀子

（中学校）校長 石原 敬彦，教頭 辻 純二

1. 学校側からの提案された内容

- ①グランドデザイン，学校経営方針について
- ②学校評価の方法について
- ③評価の全体的な傾向について
- ④前期教職員自己評価の結果について
- ⑤保護者アンケートの結果について
- ⑥児童アンケートの結果について
- ⑦今後の学校経営・運営について

2. 協議された主な内容

- ①前期自己評価の結果について
- ②保護者アンケートの結果について
- ③児童アンケートの結果について
- ④各項目の評価・達成状況・改善策について
- ⑤今後の芦安地区の教育のあり方について

3. 協議されたこと，質疑・意見

- ・芦安地区は，土砂災害，水害等災害が多い地区である。そういう地区にあるのだから，教職員の危機管理への意識がもう少し高くあってほしい。災害時での対応力を先生方にも身につけてほしい。
- ・スマホや携帯の使用のルールを家庭で決めることは，とても大事なことである。家庭への啓発を進めていくとあるが，是非やっていって欲しい。
- ・教職員評価の評価項目の文言について，評価対象者が学校全体ではなく自分自身であることが明確になるよう「あなたは，」という主語を入れたことは，評価方法として大変よいと思う。
- ・自分に厳しかったり，よい評価をつけたりすることに抵抗がある人がいるかもしれない。また，実態

は違っていても甘くよい評価をつけてしまう人もいます。評価をする時点で、ありのままを評価してよいことを前提にしたい。

- ・昨年度の評価結果と比較してどうだろうか。
→中学校は小学校に項目を合わせた変更により、比較するのが難しい。
 - ・経年で評価結果を比較し分析していくことも大事ではないか。回答数が少なく、極少数の回答が全体の数値に影響するので、そのことはふまえない。
 - ・先日の小中一貫教育推進協議会で、学校教育目標を子ども達にわかりやすい表現にしたものをつくったらどうかという意見をいただいたので、検討しているところである。
 - ・学校目標を意識するまでに至っていないという回答があるが、目的やねらいを意識して取り組むことはとても大切だと思う。学校教育目標は、学校の向かうべき方向性を示す大本である。それを意識できないで業務に携わっているとしたら、改善する方向で取り組んでもらいたい。
- ねらいを明確にし、意識化して取り組むように心がける。教職員は、懸命に仕事しており、自分に謙虚に厳しいゆえの評価だと思う。とは言え、学校教育目標を理解し全員が意識して業務に取り組めるようにしていきたい。
- ・全員の児童生徒を全教職員で見ると、基礎基本の学習内容の定着の徹底を図っているなど小規模校のメリットを説明会などでも強く打ち出していったらよい。
 - ・アンケートを集計して数値で結果を出し論じて、それぞれの回答した人の考えが分からない部分も多い。よりよい学校づくりのために、芦安独自の評価方法を考えてみるのもよい。保護者の考えを深く知って、活かしたい。

4. 分析・評価

- ・評価対象が明確にわかるように評価項目の文言を工夫したことは、評価の精度を高めることにつながった。また、小中学校のアンケートの分析を同じ形式にすることで、小中学校の比較がしやすくなった。学校評価は、評価結果を改善に結びつけていくものである。回答は、遠慮したり必要以上に厳しくしたりすることはなく、正直な気持ちで自己評価をしていくことが大事である。その上で、結果は真摯に受け止めて、学校運営の工夫・改善に活かしたい。
- ・人数が少ないので、結果の数値の増減にはあまりとらわれず、また、アンケート結果のみを「声」としてとらえるのではなく、保護者や子どもの思いを多角的に受け取っていくことも大事である。また、事柄によっては、経年で変化を追いながら分析をすることも大事である。
- ・児童生徒数も減っている。少人数指導に基づく基礎基本の定着や児童生徒同士や教職員と児童生徒の親密な関係など小規模校のメリットを外部へも周知していきたい。
- ・全体的には肯定的な評価結果が出ている中で、課題もある。危機管理マニュアルの理解や学校教育目標を意識して教育活動にあたることについては、教職員全体で積極的に特に取り組んでいく必要がある。
- ・「家庭学習」や「自主学習」の取り組みと家庭での「読書」について課題があることがわかった。「家庭学習のてびき」や取り組み表をきっかけに、家庭生活全般や自主的に学習することについて保護者にも考えてもらいながら、改善を図りたい。
- ・「芦安教育」「小中一貫教育」は保護者、地域の多くの方々に支えられている。他者との関わりやふれ合いは、児童に夢やあこがれを育むものである。これからも、学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、育みたい児童生徒に近づいているか、しっかりとした総括をする中で、芦安小中学校を特色づけている「芦安郷育」「小中一貫教育」のさらなる推進を図っていく。